

# 金沢学院大 進化を証明

## 12年目の初V 第1回は1勝で最下位

第12回全日本大学選抜相撲金沢大会（17日・金沢市の石川県卯辰山相撲場）北國新聞社など主催）唯一の「地元枠」で参戦して12年目。金沢学院大が悲願の頂

点に立った。わずかに1勝で最下位に終わった2011年の第1回大会から力を伸ばし、全国の強豪に肩を並べるまでに進化した。栄冠

を初めて地元にもたらし、相撲王国・石川の底力を見せつけた。【1面に本記】予選を日大と並ぶ最多12点を獲得して突破した。8強による決勝トーナメントに進み、東京農大を5-0、

準決勝で拓大を4-1といずれも快勝し、日体大との決勝に臨んだ。日体大は2021年アマ横綱の中村泰輝（津幡町出身）と20年アマ横綱の花田秀虎を欠きながら、3連覇を狙った日大を破って勢いづいていた。

金沢学院大は先鋒が敗れたものの、2連勝で王手を懸け、大森康弘（1年）が相手の勇み足で勝利し、優勝を決めた。

大森は昨年、金沢学院大附高3年で出場した第105回高校相撲金沢大会（北國新聞社主催）で個人準優勝。大学最初のビッグタイトルを自身の一番で確定させ、「みんなでつかんだ優勝。伝統の卯辰山で勝つのはうれしい」と喜んだ。

指導者やOBにとっても念願の優勝だった。第1回大会は小向勇太が団体戦で1勝しただけで、強豪相手に歯が立たない大会が続いた。悔しさを糧に強化し、たどり着いた頂点。大澤恵介総監督は「最初のころは優勝は考えられないぐらい弱かったのが感慨深い」と語った。

個人でも準優勝と奮闘した二陣・池田俊（3年）は「先輩たちにもいい報告ができる。さらに上を目指したい」とし、先鋒の土井太（3年）は「力で劣っているとは思っていなかった。実力を証明できた」と手応えをつかんだ。山上慈明監督は「勝つチャンスがきていた。それをしっかり生かしてくれた」と選手をたたえていた。

個人でも準優勝と奮闘した二陣・池田俊（3年）は「先輩たちにもいい報告ができる。さらに上を目指したい」とし、先鋒の土井太（3年）は「力で劣っているとは思っていなかった。実力を証明できた」と手応えをつかんだ。山上慈明監督は「勝つチャンスがきていた。それをしっかり生かしてくれた」と選手をたたえていた。

### 全日本大学選抜相撲金沢大会



団体準決勝の中堅戦で拓殖大の松永をはたき込みで破る金沢学院大の可貴

団体決勝の副将戦で日体大のブフチョローンを攻める金沢学院大の大森（右）  
＝金沢市の石川県卯辰山相撲場



大森は昨年、金沢学院大附高3年で出場した第105回高校相撲金沢大会（北國新聞社主催）で個人準優勝。大学最初のビッグタイトルを自身の一番で確定させ、「みんなでつかんだ優勝。伝統の卯辰山で勝つのはうれしい」と喜んだ。

指導者やOBにとっても念願の優勝だった。第1回大会は小向勇太が団体戦で1勝しただけで、強豪相手に歯が立たない大会が続いた。悔しさを糧に強化し、たどり着いた頂点。大澤恵介総監督は「最初のころは優勝は考えられないぐらい弱かったのが感慨深い」と語った。

個人でも準優勝と奮闘した二陣・池田俊（3年）は「先輩たちにもいい報告ができる。さらに上を目指したい」とし、先鋒の土井太（3年）は「力で劣っているとは思っていなかった。実力を証明できた」と手応えをつかんだ。山上慈明監督は「勝つチャンスがきていた。それをしっかり生かしてくれた」と選手をたたえていた。